

平成27年度（2015年度）

自己点検・自己評価報告書

2016年3月

学校法人 新潟高度情報学園

新潟高度情報専門学校

新潟高度情報専門学校が掲げる、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた、人間性豊かな技術者および実務者を育成するという目的において、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること、および、学校評価の実施およびその結果の公表を適切に行なうことで学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと専修学校との連携協力による特色ある専修学校づくりを推進するべく、自己評価、学校関係者評価を行う。

以下、平成27年度の自己点検・自己評価結果を記す。

○平成27年度 自己点検・自己評価委員

氏名	役職・所属
石澤 直樹	新潟高度情報専門学校長
亘 英一	新潟高度情報専門学校 教務課長
金子 貴之	新潟高度情報専門学校 教務課長

平成27年度 自己点検・自己評価

1. 学校の教育目標

学校教育法に基づき、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身につけた、人間性豊かな技術者および、人材を育成する。

設立時の役員の理念を大切にしており、その精神は現在も引き継がれている。

また、最新の技術の習得にも力を入れ、これからの地元新潟および日本の情報技術の発展に寄与できる人材育成を目的としている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・職業実践教育を強化するため、産学連携、地域連携およびシラバスの充実を図る。
- ・ネットワーク構成の整備および見える化を進める。
- ・実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関への移行準備を検討する。

3. 評価項目の達成および取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
・学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	4 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に 周知されているか	4 3 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 3 2 1

①課題

- ・内定先企業に対して、卒業生の評価および動向を把握していない。

②今後の改善方策

- ・入社一定期間後に内定先企業に対してアンケートを行い、企業のニーズをより具体的に収集することで、職業教育に反映させる。

③特記事項

特になし

(1) 教育理念・目標

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	
理念・目的は学則に明記し、育成人材像は学生マニュアルでさらにわかりやすく表現してある。これらの内容を周知徹底し、教職員・学生とも共有することが目標とする教育を实践するうえで重要である。	4
・ 学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	
人間教育(道義礼節を兼ね備えた技術者の育成)、資格取得、担任制、精神的な自律と技術者として自立できる学生の育成を特色として掲げている。そして、情報の技術進歩に合わせ、トレンド・技術をカリキュラムに反映させるために産学連携を推進し、企業連携の充実を図るため各分野の業界団体に参加し情報収集にあたっている。	4
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	
産学関係事業を通して社会ニーズの把握と新潟高度の名前にふさわしい優秀な人材の輩出を目指し、社会に貢献する学校をめざしている。教員は、先進的な技術を自ら講座等に参加し、カリキュラムに落とし込むことが必要である。 業界的に、5年、10年先よりも、学生が卒業する2～4年後を想定し、社会に必要とされる知識や、開発ツールに頼らず基本となるプログラミング技術の習得を重要とする指導方針を重視し、実際に役に立つ事柄を教え伝えていきたい。	4
・ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	
学生マニュアルに記載している。また、ホームページやパンフレット等へ掲載し、広く周知している。今後は保護者会で配布する資料等の充実を図りたい。	4
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	
必要とされる人材像を業界毎に検討して見直しを行っている。業界動向を把握するための、関連企業との連携強化により、連携授業を開始した。授業内容への落とし込み、社会ニーズに直結する科目内容となるよう改訂を進めたい。	4

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・目的等に沿った経営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 また、有効に機能しているか	④ 3 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・地域社会等に対して学生が交流できる体制が整備されているか	④ 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(2) 学校運営

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	
<p>全体会を通じて年度当初に研修を実施。学生マニュアル・教員マニュアルを整備し、運営方針を定めている。</p> <p>職業実践専門課程・企業連携を効果的に実施するため、運営について検討する。</p>	4
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	
<p>事業計画に基づき実施されている。人材育成並びに資格取得・就職内定に関する目標達成をめざして教職員が努力している。</p> <p>学生確保が厳しくなることが予測され、学校として高校生や将来を考える小中学生に情報技術の必要性を広く知ってもらい、情報処理に興味を持ってもらうことができる機会を提供すること等、様々な取り組みを行っている。</p>	4
・ 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	
<p>組織、意思決定には問題はない。グループウェアを有効活用して決済の迅速化を図っている。事務職員の担当業務の増加により事務分掌の見直しを進めている。</p>	4
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	
<p>整備されている。人事考課については学校経営全体の収支に応じて判断している。</p>	4
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	
<p>グループウェアが導入されており、各役職での決済、承認権限を与えている。出欠席管理委員会、進級卒業認定会議、理事会等それぞれに意思決定の仕組みがあり、会議の実施により意思決定している。</p>	4
・ 地域社会等に対して学生が交流できる体制が準備されているか	
<p>対外活動(エール活動やCANIプロジェクト)等の地域に根差した活動を行っている。産学関係の強化にともない、学習として学生らが学外に出ることが多くなってきている。小中学校や企業との繋がりが少しずつ広がってきたことで、携わるテーマも多様になり、学生にとって興味深いものになってきた。カリキュラムとの連動も視野に対応を検討する。</p>	4

<p>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</p>	
<p>学校行事や産学連係に伴う対外活動(エール活動やCANIプロジェクト)、小中学校・高校での出前授業など活動範囲も広がってきている。ホームページやSNSを通して学生等の活動を紹介している。</p>	4
<p>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</p>	
<p>学内システムによる業務の効率化は図られている。従来から自前の成績管理システム、出欠席管理システム、予算管理システム等の運用、グループウェアの導入を行い、必要に応じて改修やパッケージの導入を検討する。</p> <p>学生用グループウェアの活用方法が向上し、各種の連絡(時間割・試験スケジュール・追試験対象者の発表、荒天時の休講連絡など)や就職活動(求人票の公開、企業説明会の案内など)で学生利用が活発になった。今後は授業との連携・教員利用の向上も進める。</p>	4

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1		
	工学	情報	ゲーム
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	4	4
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	4	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	4	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	4	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	4	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上の為の取組が行われているか	4	4	3
・職員の能力開発の為の研修等が行われているか	4	4	4

①課題

[情報工学科]

- ・職業教育に関する教科目・研究機材等の質を充実させる。
- ・教員の専門分野に対して専門性・質のスキルアップを行う。

[高度情報システム/情報システム科]

- ・職業教育に関する教科目・研究機材等の質を充実させる。
- ・教育連携校カリキュラムの効果的な連携を強化する。
- ・教員の専門分野に対して専門性・質のスキルアップを行う。

[ゲーム開発研究/専門/技術科]

- ・業界団体や関係企業の連携強化が必要。
- ・教員の技術研究の為の時間の確保が困難な状況がある。

②今後の改善方策

[情報工学科]

- ・グループワークやプレゼンテーションの機会や内容の充実を図る。
- ・スキルアップのため外部研修への参加、内部研修の実施を行う。
- ・地域活動やワークショップ、インターンシップ等、外部との接触する機会を図る。

[高度情報システム／情報システム科]

- ・当校カリキュラムと教育連携校カリキュラムの方向性や強み、効果等、カリキュラムの改善を図り、当校の特色するため検証を継続する。
- ・教員のスキルアップのため外部研修への参加、内部研修の実施を行う。
- ・地域活動やワークショップ、インターンシップ等、外部との接触する機会を図る。

[ゲーム開発研究／専門／技術科]

- ・関連企業やOBなど外部との関係性強化に努める。
- ・研修やセミナーの情報収集に努め、積極的に参加すると同時に社内研修にも取り組む。
- ・メディア授業を取り入れ、学生が習得できる幅と教員指導の力をかける部分・時間の効率化を検討する。

③特記事項

- ・情報ビジネス科の募集は、25年度で終了。
- ・各学科の詳細は次ページに添付した。
- ・情報工学科は帝京大学のカリキュラム改革により、履修科目等の影響を受けやすい。
- ・次年度、教務課長から就職担当の任を解き、学生数に合わせ就職指導の強化、就職先企業との関係を強化する。
- ・情報学科・ゲーム学科では、サイバー大学と提携し、特別聴講生として、1部コンテンツを授業に取り入れ、今後の授業展開について検討を進めた。

平成27年度 自己点検・自己評価

学科：情報工学科[帝京大学併修]
(4年制課程)

(3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
<p>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</p> <p>教育理念をふまえ、資格取得、自分で調べる力、目標に向かって計画・実行できる能力、コミュニケーション力の向上など総合的な人間力の向上を目指し、技術と実践を兼ね備えた新潟高度の教育と、連携先の帝京大学として知識、研究の教育があり、双方を満たす教育課程の編成を策定、実施している。</p>	4
<p>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p> <p>社会のニーズに合わせ、学士取得・技術者養成を連動させ、社会の求める人材育成の為にカリキュラム検討を重ねている。</p> <p>また、学生に対して学校および情報工学科の教育方針を学生マニュアルに明示し、入学時にカリキュラム、コマンラバスと共に説明することで、教育到達レベルおよび学習時間を明確にしている。</p> <p>職業教育に関し授業に反映することや次年度に向け科目内容を充実させる。</p>	4
<p>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>技術習得・資格取得に合わせたカリキュラムであり、かつ学士を取得する為に編成された内容である。</p> <p>IT関連技術の習得や資格取得に対して十分な時間を割きながらも、着実に大学の単位を取得できる体系的カリキュラムになっている。</p> <p>併修であるため帝京大学のカリキュラム改革による影響を受ける。</p>	4
<p>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p> <p>社会性、コミュニケーション力向上の為に科目配置だけでなく、産学連携に基づく実践教育も取り入れ、科目としてのキャリア教育の他、個々のケースに応じたキャリアサポート強化を図っていく、きめ細かなサポート体制を整えている。また、多様な技術動向や学生の研究目的に対応できる機器・機材・書籍等の購入計画、授業へ取り込み等強化する。</p>	4

<p>・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	
<p>帝京大学のカリキュラム改革に併せて見直しの必要性が生じている。専門科目だけでなく教養科目を履修させることで専門に偏らない幅広い知識の人材育成を狙いとしており、基礎・教養科目が新設される一方で専門科目の統廃合が目立つ。</p> <p>関連分野の企業、および業界団体より参画頂き、教育課程編成委員会を実施し、カリキュラムや実施方のご意見を頂き、その結果と技術動向を踏まえ柔軟に次年度カリキュラムの作成、および見直しを行っている。</p>	4
<p>・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実習等）が体系的に位置づけられているか</p>	
<p>関連分野企業の方に非常勤講師として授業の実施、評価を頂いているが、インターンシップに関しては、受入れ企業を探し連携を進める。長期休暇期間中のインターンシップや授業との連携を含めて検討する。</p>	3
<p>・ 授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	
<p>半期毎に学生への授業理解度アンケートを実施し、評価結果を講師にフィードバックすることで、学生の理解度および改善点を把握し、学生の満足向上に努めている。</p> <p>アンケート結果に問題があれば担当にヒアリングを行い、教務課長・学科主任を中心に適宜見直しを実施し、次回の担当授業に生かしている。</p>	4
<p>・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	
<p>教育課程編成委員会で外部関係者の方々から、職業教育に関する評価・アドバイスは頂いた。</p> <p>今後は定期的な授業評価としてカリキュラムや学生指導のほか、ボランティア活動など校外活動等さまざまなシチュエーションでも協力関係を築き、学生がいろいろな立場の方達から有益なアドバイスをいただけるように活動の幅を検討する。</p>	4
<p>・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	
<p>評価や認定の基準は共通となっており明確である。</p> <p>期末試験や学期課題に重きを置き、平素の授業態度、確認テスト、授業出席率、課題提出状況による総合点により評価を行い、進級および卒業を認定する。</p>	4

<p>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	
<p>情報系の主要目標検定である情報処理国家試験においては、入学後1年での基本情報技術者試験(以下 基本情報)を受験、その後、午前免除試験(基本情報)、基本情報や応用情報技術者試験を段階的に受験・取得するカリキュラム構成となっている。</p> <p>合格率向上のため、試験の数週間前より対策授業を行い、合格のサポートをしている。</p>	4
<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>客観的な評価尺度として情報系教員全員が情報系国家資格を取得済。カリキュラムに対応し学生指導を行っているが、大学科目での指導・サポートの充実を図るため、今後も教員各々の専門分野に関するスキルアップが必要不可欠である。</p>	3
<p>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>教育課程編成委員会、および学校関係者評価委員会などで関連分野における業界関係者とコネクションを持ち、カリキュラム作成を始め、授業協力等の関係を築いている。</p>	4
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得する為の研修や教員の指導力育成など資質向上の為の取組が行われているか</p>	
<p>外部研修への参加、セミナーや展示会などにも参加し、知識・技能等の向上を図っている。科目履修により単位認定できるe-Learning等が公開され、教員の研修でも利用している。</p> <p>教員の教授力については授業アンケートを活用し内部評価・指導をおこなっており、新入社員・中堅社員について外部研修に参加させ教授力の向上を図る。継続して、新しい技術の吸収が必要であり、特に専門分野のスキルアップの為に外部研修に参加させたい。</p>	4
<p>・職員の能力開発の為の研修等が行われているか</p>	
<p>学科専任の職員は配置されていないが、学校として外部での研修に参加、業務知識習得のため研修に参加している。</p>	4

平成27年度 自己点検・自己評価

学科：高度情報システム科/情報システム科
(3年制課程) (2年制課程)

(3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
<p>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</p> <p>当校の教育理念に基づき、知識・技術だけでなく、人間として評価される人材となるように教育課程の編成を行っている。</p> <p>その上で、資格取得、自分で調べる能力、目標に向かって計画・実行できる能力、コミュニケーション能力の向上、先生を超える学生の輩出ができるように、学校・教職員は学生を親身に指導・サポートする方針である。</p>	4
<p>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p> <p>IT業界の技術動向や世の中のニーズに合わせた資格取得、技術者の養成に努め、毎年、社会の求める人材育成の為のカリキュラム検討を重ねている。</p> <p>各科目のコマシラバスおよび履修計画を作成し、その中で教育到達レベルおよび学習時間を明記し、学生に提示している。</p> <p>確認テスト、実習課題等を小まめに実施してクリアさせることで、一定の教育到達レベルを担保している。また、2年制課程、3年制課程ともに修業年限に応じた教育成果として卒業年次の後期に卒業研究科目を設けて、集大成としている。</p>	4
<p>学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>技術動向や社会ニーズをカリキュラムに取り入れる為に毎年見直しを図り、資格取得とキャリア教育を柱としたカリキュラムを構築し、教育方針に従い目指すべき人材像に添うように、各学科において入学から卒業までのスパンで体系的に編成している。</p> <p>教育課程編成委員会で聴取した業界団体などの意見も取り入れており、実践的なカリキュラムになっている。今年度はC言語の実施、プレゼンテーションの機会を増やすなどを反映させた。</p>	4

<p>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p>	
<p>入学時より就職に対しての意識付けを行い、就職前年度に通年科目として「キャリアデザイン」を実施。各分野の企業による講演など、授業内外において就職支援を行う環境がある。</p> <p>日常的な学校生活においても学生・教員間の礼儀作法をはじめ、報告、連絡、相談など社会人として必要な要素を身に付けるよう指導している。</p>	4
<p>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	
<p>関連分野の複数企業、および業界団体に参画して頂き、年2回「教育課程編成委員会」を実施。カリキュラムや実施方法についてご意見を頂き、その結果と技術動向を踏まえ、柔軟に次年度カリキュラムの見直し、および改善を行っている。</p>	4
<p>・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか</p>	
<p>関連分野企業に非常勤講師を依頼して授業を行い、評価を頂いている。</p> <p>新たに授業内で企業インターンシップを行う科目を取り入れ、実際に企業の中で現場の技術者から直接指導を受ける体制を取っている。</p> <p>今後も積極的に企業連携を進めていき、より実践的な教育を目指す。</p>	4
<p>・授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	
<p>半期毎に学生への授業理解度アンケートを実施し、評価結果を講師にフィードバックすることで、学生の理解度および改善点を把握し、学生の満足向上に努めている。</p> <p>アンケート結果に問題があれば担当にヒアリングを行い、学科長を中心に適宜見直しを実施し、次回の担当授業に生かしている。</p>	4
<p>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	
<p>卒業研究科目において教育連携企業に協力を依頼して、定期的に学生の制作物に対してレビューを行い、専門的なアドバイスを頂いた。厳しい意見もあったが、学生にとっては良い刺激となり、制作物のクオリティが上がった。</p> <p>今後はさらに企業連携を深め、より実践的な職業教育を実施したい。</p>	4

<p>・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	
<p>卒業研究科目において教育連携企業に協力を依頼して、定期的に学生の制作物に対してレビューを行い、専門的なアドバイスを頂いた。 厳しい意見もあったが、学生にとっては良い刺激となり、制作物のクオリティが上がった。</p> <p>今後はさらに企業連携を深め、より実践的な職業教育を実施したい。</p>	4
<p>・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	
<p>情報系の主要目標検定である情報処理国家試験においては、入学後半年での基本情報技術者試験(以下 基本情報)を受験、その後、午前免除試験(基本情報)、基本情報や応用情報技術者試験、高度情報技術者試験を段階的に受験・取得するカリキュラム構成となっている。</p> <p>合格率向上のため、試験日の約1か月前より対策授業を行い、合格をサポートしている。</p>	4
<p>・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>客観的な評価尺度としては情報系教員全員が情報系国家資格を取得している。</p> <p>更に新しい技術をカリキュラムに取り入れていくため、継続的な教員のスキルアップが必要不可欠である。</p>	4
<p>・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>教育課程編成委員会、および学校関係者評価委員会などで関連分野における業界関係者とコネクションを持ち、カリキュラム作成を始め、授業協力等の関係を築いている。</p>	4
<p>・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得する為の研修や教員の指導力育成など資質向上の為の取組が行われているか</p>	
<p>情報分野における先進的な知識や技能等の修得に関しては、積極的に外部研修やセミナーや展示会などに参加し、教員の知識・技能等の向上を図っている。</p> <p>指導力育成については学生に対しての授業アンケートを実施し、客観的な内部評価・指導を行っており、新入社員・中堅社員については外部研修に参加させ指導力の向上を図る。</p>	4

・ 職員の能力開発の為に研修等が行われているか	
学科専任の職員は配置されていないが、学校として外部での研修に参加、業務知識習得のため研修に参加している。	4

平成27年度 自己点検・自己評価

学科：ゲーム開発専門科/ゲーム開発技術科
(3年制課程) (2年制課程)

(3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
チームでのゲーム開発を通じて自分の役割や求められる人材像を理解し、自身の成長につなげられるように教育課程を編成している。	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
スマホゲームの爆発的な普及、ゲームエンジン、VRなど、新たな技術や開発手法が生まれ業界のニーズも多様化し、求められるレベルが高くなるなかで可能な限りカリキュラム等に反映させて教育到達レベルの引き上げを行っている。学習時間については、更なる技術力向上のため授業時間だけでなく寸暇を惜しんで制作に取り組む熱意が求められる。	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
プログラマ、CGのコース毎にゲーム業界への就職を前提としたカリキュラムが編成されている。未経験者が入学後に基礎的な内容からステップアップし、高度な技術を習得できるように段階的な科目編成となっている。プログラミングやCG制作の根幹となる科目を中心に、技術の進歩やトレンドに合わせて変更を行っている。	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
ゲーム開発会社によるスマートフォンゲーム開発授業や業界セミナーなど、現場で働くプロから指導を受ける機会を設けている。ゲーム開発は複数名で行われるため、在学中からチームでの制作を行っており、卒業までに3～5作品を制作する中でチーム開発に重要なスキルを身に付けさせている。また、東京ゲームショーへの出展や各種コンテストへの応募を通じて、課題ではなくユーザに向けた作品として開発させている。日々の教員と学生のコミュニケーションが充実しており、授業外の学校生活でもフォローしている。	4

<p>・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	
<p>教育課程編成委員のメンバーや関連企業よりアドバイスを受けてカリキュラムの作成・見直しを行っている。企業により求められる技術や考え方が異なるため一方的に意見を受け入れるのではなく、当校のゲーム系学科の方向性を明確にしたうえで連携を取る必要がある。</p>	4
<p>・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実習等）が体系的に位置づけられているか</p>	
<p>ゲーム開発関連企業によるセミナーや新潟市内のゲーム開発会社による授業などを実施している。関連企業は県外に集中しているため、企業開拓を進めるとともに、SkypeやUstreamなどライブ配信技術を利用することで、首都圏など遠方から来校することなく授業を実施できる体制を整えたい。</p>	3
<p>・ 授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	
<p>各学期末に授業アンケートを実施している。評価内容に目立った点があれば学科長より聞き取り調査が行われ是正を促している。</p>	4
<p>・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	
<p>教育課程編成委員のメンバーや業界で働くOBを中心にアドバイスを受けている。特にOBからは学習内容が現場でどのように活かされているか、現場を経験して在学期間中に学んでおきたかった事などを聞き取り、カリキュラム等に反映している。</p>	4
<p>・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	
<p>評価や認定の基本は全学科で共通となっている。単位認定基準は明確だが、CGのクオリティやゲームの面白さなどの評価は客観的な評価に努める必要がある。</p>	4
<p>・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	
<p>他の学科に比べ受験する資格が少なく、資格取得を軸としたカリキュラムではないが、受験する資格は全員合格を目指して指導を行い、必要に応じて対策授業を行っている。</p>	4

<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>ゲーム開発に用いる技術の進歩やニーズが変化する中で、業界研究や技術研究を行い、学生一人ひとりと向き合うことで毎年卒業生をゲーム業界へ輩出している。業務との兼ね合いで研究時間が思うように取れない時期もあるため、一年を通して安定した研究時間が確保できるように進めたい。</p>	4
<p>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>ゲーム開発経験者は根本的に数が少なく、兼務であっても確保が難しい現状にある。現時点では新潟市内のゲーム開発企業より非常勤講師として授業を行ってもらっているが、SkypeやUstreamなどライブ配信技術を利用することで、首都圏など遠方から来校することなく授業を実施できる体制を整えたい。</p>	3
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得する為の研修や教員の指導力育成など資質向上の為の取組が行われているか</p>	
<p>毎年、東京ゲームショウやゲーム開発者向けカンファレンス(技術交流会)「CEDEC」へ参加するなど、先端的な知識を習得しているが、技能関係は外部研修の機会が少なく、各自の研鑽が中心となっている。企業との連携を進めて技術研修を活性化させたい。</p>	3
<p>・職員の能力開発の為の研修等が行われているか</p>	
<p>学科専任の職員は配置されていないが、学校として外部での研修に参加、業務知識修得のため研修に参加している。</p>	4

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1		
	工学	情報	ゲーム
・就職率の向上が図られているか	4	4	3
・資格取得率の向上が図られているか	4	4	3
・退学率の低減が図られているか	4	3	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4	3	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	3	4

①課題

[情報工学科]

- ・卒業生の職務先での活動状況の把握が不十分であった。

[高度情報システム／情報システム科]

- ・卒業生の職務先での活動状況の把握が不十分であった。

[ゲーム開発研究／専門／技術科]

- ・自分に自信が持てない学生の就労意欲を引き上げることができなかった。

②今後の改善方策

[情報工学科]

・就職活動生への就業に対する意識付けや、就職活動はスムーズに進んだ。次年度の就職活動生についても就職担当による指導を中心に意識付けや企業訪問、会社説明会への準備が上手く進んでいる。今後は大学生としての就職活動意識を植え付けたい。

卒業後のキャリア形成への効果の把握までは至っておらず、卒業生から情報収集し、カリキュラム等へ反映を検討する。

[高度情報システム／情報システム科]

- ・実習系授業課題を整備する。
- ・就職活動生への就業に対する意識付けや、就職活動はスムーズに進んだ。次年度の就職活動生についても就職担当による指導を中心に意識付けや企業訪問、会社説明会への準備が上手く進んでいる。

[ゲーム開発研究／専門／技術科]

- ・段階的な実習課題等により小さな成功体験を積み重ねて自信をつけさせる。
- ・十分に保護者の協力を得て、学生の就職活動を後押しする。

③特記事項

- ・各学科の詳細は最後に添付。
- ・今後増えると予想される、精神疾患を持った入学生への対応が重要である。

平成27年度 自己点検・自己評価

学 科 情報工学科(帝京大学併修)

(4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 就職率の向上が図られているか	
学生数が少ないこともあり学生個々に対応できている。次年度就職年次の学生に対しては、早めにフォローすることで、前期中の全員内定を目指す。	4
・ 資格取得率の向上が図られているか	
検定前対策を実施することで、取得率の向上を図っている。 国家試験は3・4年生では全員が基本情報技術者試験に合格、1・2年生では3年生に上がるまでに全員合格を目指したい。	4
・ 退学率の低減が図られているか	
ドロップアウトが発生ないように、ガイダンスを通じて学生の把握と指導を行っている。担任だけでなく学科・学校として共通理解して、学生を注視することで退学への歯止めとしている。	4
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	
在校生の活躍の状況については学校ホームページや同窓会会報、校舎外壁での掲示等を通じ対外発信している。卒業生の近況発信については企業の許可が必要な場合が多く、情報公開できない部分もある。 卒業生とのネットワークが密でないため、OB講演会や就業先の会社説明会等を通じて交流機会を増やしたい。また、Facebook等による情報収集や就職担当による企業からの聞きだしなどで卒業生の近況を把握して、情報共有する必要がある。	4
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
卒業生を含む企業との連携を強化し、優れた教育活動となるよう情報収集しカリキュラムへ反映したい。卒業生勤務先企業へのアンケート等の実施を検討している。	3

平成27年度 自己点検・自己評価 学 科 高度情報システム/情報システム科

(4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・就職率の向上が図られているか	
現状、担任および就職担当の2名体制で学生個々に対応できている。内定時期が遅い学生がいるため、早期の全員内定を目指す。2年生課程では、入学から就職活動までの期間が短いため、意識付けや本人の就職活動準備と履修内容の理解が足りない学生が出ることもあり、担任・学科教員・就職担当と連携して指導を行う必要がある。	4
・資格取得率の向上が図られているか	
主要検定前には対策授業を実施することで、取得率の向上を図っている。 1年生の目標検定や受験時期の変更に合わせ対策を検討・実施した結果、国家試験において大変良い結果を残すことができた。今後も継続して結果に繋げていきたい。	4
・退学率の低減が図られているか	
ドロップアウトが発生ないように適宜ガイダンスを通じて、個々の学生の状況把握と指導を行っている。必要であれば保護者と連絡をとり、学生状況を伝えて、家庭でのサポートを依頼することで、学校と家庭の両面から学生をサポートしていく。 経済的また疾病等の理由で、学習が継続できない学生がいた。	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	
在校生の活躍の状況については学校ホームページや同窓会会報、校舎外壁での掲示等を通じて対外的に発信している。卒業生の近況発信については企業の許可が必要な場合が多く、情報公開できない部分もある。 卒業生とのネットワークが密でないため、OB講演会や就業先の会社説明会等を通じて交流機会を増やしたい。また、Facebook等による情報収集や就職担当による企業からの聞きだしなどで卒業生の近況を把握して、情報共有する必要がある。	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
職業実践専門課程を機に卒業生を含む企業との連携を強化して情報収集を行い、カリキュラムへ反映することで、優れた教育活動を行いたい。	3

平成27年度 自己点検・自己評価

学 科 ゲーム開発研究/専門/技術科

(4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 就職率の向上が図られているか	
履歴書や面接の指導は個人レベルで行っており、学生一人ひとりに合わせて細かな指導を行った結果、ゲーム業界への就職を実現したが、就労意欲のない学生や自分に自信が持てない学生の就職指導が不十分であった。	3
・ 資格取得率の向上が図られているか	
資格取得を軸としたカリキュラムではないが、受験資格は全員合格を目指す難易度の資格が多いため、必要に応じて対策授業を行った。 1年生においては高い取得率となった。	3
・ 退学率の低減が図られているか	
担任や関係教員は放課後などに教室へ滞在する時間を設けて、クラスの雰囲気づくりをすることで学生間のコミュニケーションは良好となり、人間関係が原因での退学率低下につながっている。	4
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	
在学中から学生と教員のコミュニケーションが図られており、卒業してからもSNS等を通じて情報交換が行われている。在校生についてはコンテストへの応募に伴う受賞結果が主な活躍の場となる。	4
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
在学中から学生と教員のコミュニケーションが図られており、卒業してからもSNS等を通じて情報交換が行われている。学習内容が現場でどのように活かされているか、現場を経験して在学期間中に学んでおきたかった事などを聞き取り、シラバス等に反映している。	4

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・学外活動の幅が広がってきており、学生や対応について検討の必要性がある。
- ・卒業生の情報収集・情報提供が十分といえない。

② 今後の改善方策

- ・課外活動において教育に係る活動への支援体制、活動へ参加する学生への指導教育の検討。
- ・卒業生への情報収集・提供の強化を検討。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	
<p>就業意欲が低く、就職活動に消極的な学生への対応として、就職担当による授業や個別指導を強化。クラス担任、就職担当、学生の3者で連携を取り、活動内容を改善しながら学生への指導を行い、早期内定に結びつけている。次年度就職年次の学生も動きが活発になってきているため、良い結果に結びつけたい。</p>	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	
<p>担任制により担任が学生とのコミュニケーションを図りながら指導する体制を重要としている。精神的な問題を有する学生への対応は、姉妹校に数名いるカウンセラー(臨床心理士)の協力を得ている。</p>	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	
<p>入学時の学費免除制度や在校生向けの優待生制度、授業料の延納・分納対応など学費の軽減や支払いの負担軽減を行っている。年間の諸経費についても可能な限り削減している。最近では多額・長期間の学費滞納や奨学金を借り入れても学費に充当できないケースも増えている。国による経済的支援にあわせ、法人でも経済的に就学困難な学生に対する授業料減免制度を設置した。</p>	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	
<p>年1回の健康診断を実施。就職活動に支障がないように就職活動が本格化する前に健康状態を把握する。精神面を除き現時点では専門医を置く必要はないが必要に応じて姉妹校の教員に依頼することも可能。また、外部に学校担当医を依頼している。</p>	4
・学外活動に対する支援体制は整備されているか	
<p>CANIプロジェクトやエール活動、ゲーム学科による東京ゲームショウへの出展および運営を学生等が中心に実施できる様に各学科が取り組んでいる。</p> <p>最新技術習得のため機材等の充実を図ることや、新たな学生作品の展示・発表機会を増やすなど必要に応じて支援している。</p> <p>学外活動の幅が広がってきているので、学生等のかかわり方や支援についてサポートの検討のため状況把握をすすめる。</p>	4

・学生の生活環境への支援は行われているか	
遠隔地出身者の為の民間宿泊施設を借り受け、姉妹校ともに学生寮として提供している。冷蔵庫やエアコンなどを学校が提供することで、生活環境を整えている。また、校内には飲料の自動販売機以外に冷水器や給湯器の設置や、すべて100円で購入できる無人購買を提供することで、食事に関する経済的な負担を軽減している。ラウンジには雑誌やマンガを設置するなど、息抜きできる環境も提供している。	4
・保護者と適切に連携しているか	
学生の就職、学習には保護者による支援や理解が重要であるため、各期の成績表送付や保護者面談会、新入生の保護者向けに電話連絡等を実施している。また、日常の欠席連絡や問題のありそうな学生の保護者には連絡を取り、密接に連携をしている。特に過去に問題を抱えていた学生は、入学後再び同様のケースとなる事が多いので保護者との連携が重要である。	4
・卒業生への支援体制はあるか	
同窓会の開催や就職情報の提供は行っている。必要があれば再就職の為の情報を提供している。ほか、教務運営に無理がない形での支援を検討。卒業後の就職先企業での評価や実績等を調査し、卒業生等との連携・情報収集を検討する。	4
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	
新潟市主催イベントにて、高校生や高校教諭と共同で、資料作成・プレゼンテーション等のイベント運営を行った。また、地域の小学校や公民館からの依頼によるコンピュータやロボットの実験教室等の取組みを継続して実施している 高校からの依頼でゲームや情報処理分野の進路指導や就職指導等も行っている。	4

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 2 1
・校外実習、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 1

①課題

特になし

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

特になし

(6) 教育環境

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	
<p>パソコンやOA機材は陳腐化が早いので計画的に入れ替えを実施している。学習環境の充実と入学生募集の観点から、学生の研究・学習、興味・関心に合わせて効果的な設備を用意し提供している。今年度はフルHD対応プロジェクタやゲーム系の3年生に高性能デスクトップPCを導入した。</p> <p>今後は学生が自主的に研究できる環境を整えていきたい。</p>	4
・校外実習、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	
<p>就業体験は有意義なので推進していきたい。事前・事後指導やインターンシップ期間で状況確認を行っている。しかし、守秘義務の点で受け入れのない企業も多く、今後も企業開拓が重要である。</p>	4
・防災に対する体制は整備されているか	
<p>施設・設備は耐震基準などに照らし合わせて工事を実施済み。併せて災害時の飲料水の確保や、自家発電機などを設置した。</p> <p>災害に対し、学生ならびに教職員に啓蒙活動の機会を増やすことは効果的と考えている。</p>	4

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか	4 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	4 3 2 1

① 課題

学生募集活動は適切に行われているが、入学者数として100名を確保するための努力が必要となる。また、女子の入学者率が資料請求者の割合に対して少ないので、増やしていきたい。

② 今後の改善方策

- ・学校案内やホームページなど、高校生が学校研究で目にするものは、必要な情報が正しく・わかりやすく記載されているように配慮する。
- ・学校の教育成果等を広く伝えるため、年に数回の高校訪問を実施して高校の先生に対して、直接説明させていただく機会を設ける。また、進学者者が開催する会場・校内ガイダンスにも積極的に参加して、高校生に直接説明する機会を増やし、当校の特色などを正しく理解していただき、入学者数増加につなげる。
- ・保護者向けの案内を作成し、専門学校進学について理解を深める機会を増やす。
- ・女子の希望者が多いデザイン系の学科を平成29年4月より新設することで、女子の入学者数増加につなげる。
- ・SNSやWeb広告などWeb上での広報活動を積極的に行う。

③ 特記事項

- ・平成29年度よりデジタルデザイン科を新設
- ・平成28年4月よりデジタルハリウッドと教育提携を行う

(7) 学生の受入れ募集

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	
<p>高校生が進路選択に必要な情報元となる学校案内やホームページなどについて、必要な情報を正しく記載し、正しい進路選択ができるように配慮している。</p> <p>また、毎月数回のオープンキャンパスを開催して、各分野の担当教員より入学希望者や保護者に対して授業内容や資格取得、就職指導など、自分に合った進路選択ができるように具体的な情報提供を行っている。</p> <p>しかし、現状としては定員に達していないため、年数回の高校訪問実施や、進学者者が主催する会場・校内ガイダンスへ積極的に参加して、高校生や高校の先生に教育活動を直接説明できる機会を増やすとともに、保護者向けの案内を作成し、専門学校進学について理解を深める機会を増やしたい。</p> <p>また、女子の入学者が少ないため、女子の希望者が多いデザイン系の学科を平成29年4月より新設することで入学者数を増やしたい。</p> <p>SNSやWeb広告などWeb上での積極的な広報活動も必要。</p>	2
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	
<p>資格取得や就職実績、各種コンテスト入賞等の教育成果があった際は、その都度ホームページで情報を開示している。資料請求者には上記のことを記載したリーフレット等を適時送付して伝えている。</p>	4
・ 学納金は妥当なものとなっているか	
<p>他校の学費や学資金情報を勘案し、妥当な金額を決定している。諸経費についても無駄な教材等を排除し、経済負担の軽減を図っている。</p> <p>なお、入学辞退者や退学者、および学費未納者については、規則に従い返還や徴収を行っている。</p>	4

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(8) 財務

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	
校地校舎の購入の為に長期借入れも計画どおり返済されており順調に自己資金構成比率が高くなっており今後も順調に推移するものと考えられる。	4
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	
予算は各部局が年度前に申請し総務経理部が妥当性をチェックし執行しており予算が適正に使われ教育研究活動が行われている。	4
・ 財務について会計監査が適正におこなわれているか	
27年度より公認会計士・監査法人に監査を依頼し、外部監査を行っている。常時、学校法人会計として税理士指導のもと会計をしている。また、複数の職員配置による牽制がたもたれている。年度末より2か月以内に決算処理を行い理事会までに監査する。	4
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	
法第47条の規定による閲覧対象者は、「当該学校法人の設置する私立学校に在学する者 その他の利害関係人」に対し、求めに応じて公開する。当校の理事会に提出とれるものと同様の形式を公開している。ホームページ上においても公開する。	4

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4 3 2 1
・個人情報に関し、その保護の為に対策が取られているか	4 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか	4 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	
適正に管理している。学則変更などの機会に合わせて基準の確認を行っている。総務において管理し、重点的に理解することが重要と考える。	4
・ 個人情報に関し、その保護の為に対策がとられているか	
個人情報を正しく管理するために個人情報管理規程を作成。個人情報保護を守りつつ、教育成果の広報活動を行なうため、マニュアルや研修による職員の教育が必要と考える。	3
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	
年に1度実施して点検評価している。文部科学省生涯政策局の専門学校における学校評価ガイドラインを基準に実施。役職者において正しく理解したうえで実施する必要があり、学校全体での評価体制が必要。役職者が実施しており、全教職員での自己点検自己評価はできていない。	3
・ 自己評価結果を公開しているか	
ホームページ上で評価結果を広く公開している。これは、職業実践専門課程運営上の規則でもある。また、事務部門に対しても評価制度を拡大し実施することを検討している。	4

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 (3) 2 1
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	(4) 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	(4) 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
<p>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</p>	
<p>情報技術の進歩に沿った教育が不可欠であることから、業界との連携、地域との交流は重要である。研究設備を用意して関連企業との連携や、施設・資金・マンパワーを確保して無理のない形で、学生等の研究と合わせた地域貢献の仕組みを計画している。</p> <p>校舎はベンダー試験の試験会場や小学生向けロボット教室として要望に応じて開放している。</p> <p>今年度は地域住民を対象としたパソコン講座が実施できなかった。</p>	3
<p>・学生ボランティア活動を支援しているか</p>	
<p>社会を広く知ることは重要で、様々な経験ができるよう支援する。CANIプロジェクトが中心となるが、担当教員にて支援する体制づくりを進めている。他、新潟市のパソコン支援を中央公民館で実施している。</p>	4
<p>・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか</p>	
<p>新潟市生涯学習センターでのパソコン講座、地域の小・中学校からの依頼による出張授業、高校での就職指導など様々な形で実施している。学生主体で行うものや、教員が主体となり学生がサポートものなど、内容に応じて学生が関わる機会を設けている。すべての学生が関わるわけではないが、参加学生にとっては代えがたい機会となっている。</p>	4

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・職業実践教育を強化するため、産学連携、地域連携およびシラバスの充実を図る

高度情報システム科では、企業インターンシップを行う科目を継続して実施。協力企業先でプログラム開発やテスト、レビューなどを行い、現場の技術者に評価して頂く機会を設けたことで、より実践的な職業教育が行えた。学生は学習と職業との違い、観点、意識の違いを吸収し、就業することについて意識が変わってきている。次年度、情報システム科での導入を検討。

情報工学科では、アクティブ・ラーニング^{※1}を1年生から3年生まで合同で授業を実施。教育連携企業を中心とした複数社の協力のもと実施することができた。学生の主観と企業やビジネスを意識させた考え方とのギャップやそれを踏まえた授業展開など、内容を検討しながらの実施ではあるが、学生間での役割や今後の授業内容も含め、目的・内容を模索しながら当校のアクティブ・ラーニングの形を構築する。

情報系学科では、課外活動として昨年度に引き続き、新潟市南商工振興会との協働による鳥屋野潟を中心とした町おこしイベントに関わるプロジェクトや、新潟市 潟開発研究所の学術研究として鳥屋野潟の調査に学生が参加している。鳥屋野潟での新たなロボット活用案など、活動内容も広がってきており、授業にも絡ませた形での対応も検討したい。また、ビジネス系学科の廃止に伴い、これまでビジネス系学科が実施してきた新潟市生涯学習センターとの協働による市民を対象とした各種パソコン講座を引き継いで実施する。

ゲーム系学科においては新潟市内のゲーム開発会社の協力を得て、ゲーム制作に関わる授業や作品評価を実施している。プロの目線で講義や評価を行ってもらうことで、学生の技術向上はもとより意識向上にもつながっている。

・ネットワーク構成の整備および見える化を進める

当校および姉妹校のネットワーク環境において、利用端末の増加に伴うデータ量の増加等が原因となるネットワークの遅延が生じるため、構成機器の稼働状況を把握することが重要となってきた。ネットワーク機器の入れ替えを進め、関連ネットワークでの見える化、稼働状況やセキュリティにおける信頼性の向上に対応する。

・実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関への移行準備を検討する

2019年4月の開学を目指し、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化について、これまでに文部科学省の中央教育審議会で審議され、今年にも文部科学大臣に答申する流れとなっている。新たな高等教育機関の新設に向け、当校としても準備を進める。

※1 アクティブ・ラーニング

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。